

報 告

歯周病を対象とした唾液生化学検査に対する受診者の意識調査

西辻 直之¹⁾ 古藤 真実¹⁾ 福澤 洋一¹⁾ 矢吹 義秀¹⁾ 上谷 公之¹⁾
 久保 宏史¹⁾ 吉野 浩和¹⁾ 長井 博昭¹⁾ 中曾根隆一¹⁾ 矢島 正隆¹⁾
 岡田 彩子²⁾ 有吉 芽生²⁾ 曾我部 薫²⁾ 菊地 朋宏²⁾ 宮之原真由²⁾
 山田 秀則²⁾ 村田 貴俊²⁾ 野村 義明²⁾ 花田 信弘²⁾

概要：(公社)東京都港区芝歯科医師会は、JR新橋駅西口SL広場において、事前の告知や当日の呼びかけに応じた成人男女250名を対象に、「歯周病予防のための新唾液検査事業」を5年間にわたり4回実施した。事業目的は、歯周病のスクリーニング可能な唾液検査の受診を契機に、受診者の歯周病への理解を促し、検査の重要性を啓発することである。

各受診者から採取した唾液を用いて生化学検査を行い、結果を受診者に郵送した。また、事後アンケートを実施し、「受診したきっかけは何か」、「唾液検査は簡単か」、「唾液を採取することに対して抵抗があるか」、「次回の検査も受けたいか」、「検査結果票はみやすいか」、「検査結果をみて歯科を受診するか」、「検査結果をみて歯周病について関心が深まったか」の7項目への回答を求めた。

事後アンケートで回答者(回収率:年平均22.1%)の9割が選択した項目は、「この検査が簡単だと感じた」、「次回も受けたいと思う」および「検査により歯周病に興味をもった」であった。以上より、唾液検査は歯周病への関心を高めるとともに、受診契機の一要因となることがわかった。

索引用語：口腔健康増進, アンケート調査, 唾液検査

口腔衛生会誌 67: 89-93, 2017

(受付:平成28年8月22日/受理:平成28年10月26日)

はじめに

(公社)東京都港区芝歯科医師会では、歯周病スクリーニングのための唾液を検体とした生化学検査を用いて地域住民・在勤者などを対象としたイベント型の歯周病検査を行っている。その目的は、①地域における公益事業の一環として一般の方への歯周病検査・歯周病予防の啓発を行うこと、②歯科医師に対して新しい唾液生化学検査の意義と将来性についての周知を行うこと、③行政と連携した新規の事業を構築することである。

そこで日本歯科医師会が示したCommunity Periodontal Index (CPI)に頼らない「新たな歯周病検査」として、生化学検査による数値判定結果と生活習慣についての問診結果を総合判定し、歯周病のリスク判定をする方法を用いて20歳以上の不特定の港区在住・在勤者を含む対象者に無料の歯周病唾液検査として実施してきた。

検査結果は、受診者へ郵送で報告した。その際に、質

問用紙を同封し、受診者の歯周病に対する意識や行動に関するアンケート調査を行った。

今回、アンケート調査の結果をまとめたので報告する。

対象および方法

1. 周知方法および対象者

対象者は、港区在住・在勤者を含む不特定の成人250名を予定した。事前の周知は区の広報紙(広報みなど)および新聞折り込み広告で行った。港区後援名義使用の承認を得て港区役所にある掲示板等にポスターを貼付した。また、港区からの申出により、港区内に避難している東日本大震災の被災者の方には個別に通知をした。マスメディアへの周知としては厚生日比谷クラブと厚生労働記者会の二つの記者クラブにニュースリリースとして発信した。さらに当日は、設置されたステージ上より、マイクにて通行人に対して検査受診を勧誘した。またポスターによる周知も行った。

¹⁾(公社)東京都港区芝歯科医師会

²⁾鶴見大学歯学部探索歯学講座